



月刊部品新聞

2011年12月 第69号

編集・発行 Unit

ラロカ倫理

運動競技（スポーツ）において競技者や指導者だけでなく、関わる全ての人が常に考えていかなければならない倫理があります。それがラロカ倫理です。

ラロカ倫理とは

Jack SCOTT が提唱した「ラディカル倫理」「ロンバルディアン倫理」「カウンターカーチャー倫理」を分かりやすくするために頭文字をとったものです。スポーツにおける倫理学を考えるにあたって基本となる倫理観ではないかと思えます。

ラディカル倫理

「結果は重要であるが、それを成し遂げる過程はさらに重要である。」という定義です。

運動競技はもろろん勝敗がつきものです。勝つこ

とは重要なことではありませんが、その目的を達成するに当たって、なにを考え、どんな行動をしてきたかということのほうが重要なことであるという考え方になります。

ロンバルディアン倫理

「勝利だけ重要で、その過程でどのようなことを行っても勝利で正当化される。」という定義です。スーパースターの名付け親でもあるアメリカンフットボールの名将 Vincent Thomas LOMBARDI の「Winning isn't everything. it's the only thing.」という発言に基づくものようです。

一般的に勝利至上主義といわれる考え方です。

カウンターカーチャー倫理

「目的は重要ではなく、その目的に向かう過程

が大事」という定義です。勝敗にこだわらず運動を楽しむというもの、たとえばハイキングやウォーキング、フィットネスクラブでのスタジオリズムなどがこれに当てはまるのではないかと思えます。

運動競技における倫理

運動競技においてはラディカル倫理、あるいはロンバルディアン倫理のどちらかがふさわしいのではないかと思えます。なぜならどちらも勝利に価値を見いだしているからです。競技力を競い合い、勝敗を争う運動競技において勝利は非常に価値のあるものです。

試合を行うことが重要で、その結果である勝敗はどうでもいいと考えるカウンターカーチャー倫理では勝利に価値を認めていません。余暇に行く趣味として運動（エクセサイズ）の倫

理観としては適切であります。運動競技（スポーツ）においてはそうではないと思えます。それではラディカル倫理とロンバルディアン倫理のどちらが運動競技（スポーツ）における倫理観として適切なのでしょうか。

運動競技にあるべき姿

競技においては100%確実な勝利というものは残念ながらありません。その確率を少しでも上げるために、競技者だけに、関係者はタ・テ・コ・ス・マそれぞれ最大の分野において、競技に臨むはず

勝敗が決まる最後の瞬間までは、競技者だけではなく、関係者全ては勝利を目指して最大限の努力をします。結果として報われないかもしれませぬ。しかし信念をもつて最大限

の努力を行うことは、否定されるものではないはず。信念をもって最大限の努力を普遍からすることにより、勝利を得ることができ。しかしたえそれがかなわなかったとしても、勝利を求めないのであれば信念を持って最大限の努力を継続することは大切なので

ラディカル倫理は運動競技の関係者全てが持つべき倫理観ではないでしょうか。

Unit 代表 澤野 博（さわの ひろし）

日本体育大学卒。社会人経験を経て欧州へ留学。乳酸を中心としてトレーニングを幅広く学ぶ。帰国後、部品となって競技者を支えるという意味で「Unit」を設立。競技種目、競技レベルを問わずトレーニング指導を中心に活動。医療系国家資格の臨床検査技師の資格を持つ異色のフィジカルコーチ。NSCA CSCS、JADA DCO など保有。ご意見、ご要望、仕事依頼、お問い合わせは下記まで。0422-34-5055 (Fax 兼用)、090-1999-2845 または sawano@team-unit.com

はみだし：本年も 多数の方に 支えられ 感謝を思い 過す年の瀬